

目次

- ▶ 脳心臓血管センターがオープンしました……………表 紙
- ▶ 特集 新たな放射線治療がスタート! ~新リニアックの挑戦~…2・3ページ
- ▶ シリーズ ドクターにききました! 乳がん検診を受けましょう…4・5ページ
- ▶ 病院紹介 病院食についての取組み……………6ページ
- ▶ コンチェルトのページ……………7ページ
- ▶ 県立ほすびたるニュース……………8ページ



脳心臓血管センターがオープンしました

福井県立病院脳心臓血管センター 脳神経外科主任医長 木多 眞也



福井県立病院では、本年4月に、循環器科、心臓血管外科、脳神経外科が一体となって全身の血管病の包括的治療に取り組むために、脳心臓血管センターが開設されました。

厚生労働省の医療統計によると、がん、心疾患、脳卒中が我が国の3大死因疾患として長年君臨しています。しかも、これらの疾患の患者数は年々増加し続けています。脳卒中や心疾患は、死に直結する怖い血管の病気ですが、生存しても、しばしば重い後遺症が残ります。介護度の高い(要介護3以上)患者さんの原因疾患は脳卒中が3割、認知症が2割を占めています。寝たきり状態の原因の第1位は脳卒中です。簡単にはPPK(ピンピンコロリ)とはいかないのが現実です。そして、家族には長期間にわたる様々な種類の負担がかかります。特に、患者さんの配偶者が大変な苦勞を強いられることとなります。

血管が病気を起こす原因は動脈硬化が大部分を占めます。血管は体中を巡っていますが、病気になりやすい部位は決まっています。頭から順に、脳血管、頸動脈、冠動脈、大動脈、下肢血管です。原因が同じであるだけに、約3割の患者さんは、病気の血管が複数あります。最初は脳卒中になり、つぎは心筋梗塞になるという具合です。

血管の病気に対する治療法は、薬剤治療、血管内カテーテル治療、外科手術治療があり、患者さんの病態に応じて最も適切な方法を単独あるいは組み合わせて行うのが、今日では最も進んだ方法です。しかし、頭からつま先に至る全身のすべての血管に対して、スムーズにチーム医療を行うことができる病院は、全国でも極めて限られています。

高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙が血管病危険因子です。不安のある方は、ぜひ紹介状を持って、窓口である脳心臓血管センター 循環器科にお越し下さい。

福井県立病院理念・基本方針

理念

私たちは、総合的かつ高度な医療の提供を通じて、県民に信頼され、心あたたまる病院をめざします。

基本方針

1. 心身ともに全人的な医療を提供します。
2. 質の高い医療、特殊・先駆的医療を提供します。
3. 安全管理を徹底し、患者様本位の医療を提供します。
4. 救命救急医療の充実を図ります。
5. 地域医療機関との連携に努めます。
6. 個人情報の適切な管理を行います。
7. 健全な経営に努めます。

「コンパス」には、

「円を描く道具」「方角を示す磁石」の2つの意味があります。

この広報誌が皆様と当院の輪(和)を描くものとなり、また皆様にとって有用な情報を提供することで、今後の皆様の道しるべとなれるよう願いを込めて名付けられました。

昨年度からは地域医療連携通信「コンチェルト」と統合した内容でお届けしています。

特集



新たな放射線治療がスタート！

～新リニアックの挑戦～

後編

陽子線がん治療センター長
核医学科長 玉村 裕保

平成 28 年 4 月にオープンした「放射線治療棟」は県立病院と同じ色の外観でできています。この色は朝焼けの色と呼ばれ、1 日のはじめの希望の光の色です。放射線治療をしていると、時に仕事に追われ夜の 10 時を過ぎてしまったり、治療計画が気になって朝の 6 時に病院に来ることもありますが、駐車場からチラッと見える「放射線治療棟」は時にハッとするほど美しく感じるがあります。

そしてこの放射線治療棟の中に次世代型の放射線治療機器として注目を集めている“True Beam：アメリカ Varian 社製”が収まっています。私たちはこのモンスターマシンを用い毎日治療をしています。特に私たちはこれから進む高齢化社会をにらみ、高齢のがん患者さんに対し、体にやさしい負担の少ない放射線治療が受けられる様に治療時間を短縮し、高度な IMRT（強度変調放射線治療）等を多くの治療に取り入れています。現在の最高の放射線治療技術の 1 つである IMRT は、北陸では福井県立病院が最初に開始し、今年で 13 年目になります。そして、その進化形と言われる VMAT（回転型強度変調放射線治療）もいよいよ年明けから使用可能となります。この VMAT 使用により患者さんへの放射線治療時間はさらに短縮され、短時間でがん病巣にはより強い放射線を当て、正常の大切な器官（臓器）には放射線の当たる量を減らし治療する理想的な治療が可能となります。これは我々が目指していた新しい放射線治療の 1 つで、来年初めからいよいよ治療が開始されます（安全性と確実性を担保するため、もう少しの間お待ちください）。

そしてもう 1 つの大きな武器である体内のがんをピンポイントで迎撃する「第 2 世代の動体追跡照射装置」は、治療を開始しています。福井県立病院では初期型の「動体追跡照射装置」を用いた豊富な治療経験があり、わずか 2～3 mm の誤差で体内の動くがんだけを打ち抜く治療を、肺がんや肝臓がんなど 376 名のがん患者さんに行っており、その高度な技術は当院ではすでに確立しています。実はこの技術は世界最高レベルの技術であり、早期の肺癌を 4 回、肝臓がんをわずか 8 回の治療で治す治療で、手術に匹敵するものです。これらの高度な治療は呼吸器内科や泌尿器科、放射線科の協力のもと、福井県立病院のような総合病院でのみ施行可能な治療です。

実は最新の技術を用いた最高の放射線治療は、多くの科の先生や技師さん、看護師さん、医学物理士さんに支えられて成り立っています。

そして先日、福井県立病院に勤めていらしゃった竹越先生より、すばらしい絵をいただきました。先生は旧病院の放射線治療室の外壁に壁画を描いてくださった先生で、先生がかかれる絵は本当にあたたかく、旧病院の治療に来られた患者さんが先生の書かれた越前海岸の壁画を見て「頑張っ

んを治してまた越前海岸の水仙を見に行きたい」と言って泣いていたことを思い出します。

先生からいただいた2枚の絵の1枚は陽子線がん治療センターに、そして1枚は新しくできた放射線治療棟に設置しました。これから先、2枚の絵は多くの治療患者さんを見守り、やさしく勇気づけ、多くの患者さんの心を救っていくのだろうと私は確信しています。

竹越先生より寄付していただいた絵を2つの治療の場所に分けてあげましたが、この福井県立病院には全国に15ヶ所しかない「陽子線治療」という究極の放射線治療の1つがあります。今回治療を開始した次世代型の放射線治療機とこの究極の治療法である陽子線治療を組み合わせた新しい「混合照射法」は福井県立病院で研究開発された治療法で、食道がんに対し治療を行っている他、頭頸部がんに対しても施行しています。この治療は最新・最高レベルの放射線治療ですが、各科の先生や多くのスタッフが一丸となって、病気で苦しんでいる患者さんに対応することにより、治療成果が出る方法だと考えています。

われわれは福井県立病院の基本方針である「質の高い医療、特殊・先駆的医療提供」に準じ協力し高度な放射線治療を注意深く行っています。福井県立病院が、また今回導入された最新型の治療機器が、がんで苦しむ多くの患者さんの手助けになればありがたいと思っています。



「寒風清香」
竹越竹山 画

シリーズ
ドクターに
ききましたっ!

乳がん検診を受けましょう

「乳がん検診について知りたいのですが…。」

今回教えていただくのは、大田 浩司 ドクターです!

乳がんは年々増加傾向にあることをご存知かと思います。国立がん研究センターの報告では、2016年の乳癌罹患予測数は9万人におよぶとのことですが、乳がんは早期発見にて治る可能性が高いため、検診が勧められています。



さて、そもそも検診とは何のために行うのでしょうか。検診を英語で記載する場合には、『screening (スクリーニング)』と表現されます。スクリーニングの日本語訳は、『ふるい分け』となります。つまり、ある集団から特定の病気を見つけ出すために、そうではない方とふるい分けをすることと理解されます。さらに検診は2種類に大別され、一つは『対策型検診』、もう一方は『任意型検診』です。

対策型検診の事業主は市町村などの自治体であり、2年に1回のペースで提供されます。受診者は、乳がん検診では40歳以上、職域検診の対象外となる女性とされ、年齢の上限は設けられておりません。検査はマンモグラフィが主体です。一方、任意型検診は、個人の健康管理として行われます。対策型のように40歳以上とは定められておらず、検査の内容も間隔もさまざまです。

では、上記の2形態の最大の違いは何でしょうか。それぞれの目的が、個人のために行うのか、集団のために行うのか、実は大きな違いが存在し、この部分が受診者のみならず医療者においても十分に理解されていないと感ずることがあります。

対策型検診では、ある特定の大きな集団(例えば福井市民)に検診を提供することにより、特定の病気(例えば乳がん)で死亡する人数を減らすことが目的です。『死亡率減少効果』を目標に、限られた予算の中で大人数の集団(mass=一般大衆)のために行う検診と言い換えることができます。できる限り多くの方に受診していただくため、検診回数を増やし、アクセスを良くするため移動型バスを用い、さらに自己負担を減らすよう努めており、検査は死亡率減少効果が科学的に証明されたモダリティ(検査)、つまりマンモグラフィのみを用います。視触診はこの死亡率減少効果が証明されず、2016年2月の『がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針』にて推奨しないことが発表されました。

一方、任意型検診の目的は『個人の健康管理、維持』と言えます。よって、提供される検査も死亡率減少効果に拘らずに今後期待される検査、例えば超音波やPET検査なども取り入れることが施設によっては可能です。その反面、受診者の負担額が大きくなることがデメリットといえるでしょう。

最後に、これら検診に対してターニングポイントとなる出来事が2009年に起こりました。米国予防医学専門委員会(USPSTF)が、『40歳代には乳がん検診を推奨しない』と発表したのです。その理由とし

て、40歳では乳がん検診による死亡率減少効果は証明されてはいるものの、50歳代以上と比較しその効果は小さく、かつ不利益が大きいと、利益不利益の差が小さいと理由づけられました。ここでいう検診の不利益としては、偽陽性=がんではない受診者が検査で陽性になること、偽陰性=がんに罹患しているにもかかわらず正常と診断されること、そして過剰診断=確かにがんではあるが、生命を脅かすほど進行しないのんびりしたがん、とされています。検診には不利益が存在することは非常に大切な考え方ですが、日本と欧米との罹患年齢には違いがあり、欧米では閉経後に罹患率が増加することに対し、日本では50歳代前後に罹患率のピークを向かえるため、そもそも両者では受診者の事情が異なるのです。

日本乳癌検診学会では日本国内における利益と不利益を解析し、日本では40歳代の乳がん検診を勧める意向を表し、さらに2013年に国立がん研究センターより発表された『科学的根拠に基づく乳がん検診ガイドライン』でも40歳以上を乳がん検診の対象として推奨することを発表しました。確かに、福井県における過去5年間のデータでも、40歳代の検診感度は73.1%であり、30%弱の罹患者は発見できない結果でした。マンモグラフィ自体の限界(高濃度乳腺)、検診の合間に突然出現する進行の早いがん(中間期がん)などが原因ですが、不利益を減らすためにも、対策型検診では精度管理が大切であり、検査機器の管理、技師の技術向上、医師の読影力向上、データ管理などが重要と言えます。

とはいえ、日本では欧米に比較しまだまだ受診率が低く(2013年の国民生活基礎調査では対象人口の34.2%が検診を受診)、乳がん検診のいろはを十分理解したうえでより多くの方々に受けていただき、明日への健康につなげていただくよう切に願い、筆を置きたいと思えます。



当院における乳がん啓発月間パネル展示

定期的に乳がん検診を受けましょう。
また、月1回程度セルフチェックを行いましょう。
乳がん検診で精密検査の指示があった場合や、セルフチェックで異常を感じた場合は、医療機関を受診してください。



当院におけるお問い合わせ先

- 乳がん検診
健康診断センター……………0776 (57) 2920
- 精密検査
がん医療センター 乳腺外来……………0776 (54) 5151 (代)



病院食についての取り組み

～嚥下食のとろみを簡単に判定できる方法を考案しました～

クリーム
ルール

栄養管理室

高齢者の増加に伴って、摂食・嚥下機能障害への対応が重要な課題となっています。

口やのどに運動障害を生じ食べ物がうまく噛めない、飲み込めない、むせるなど食べる機能に問題があることを摂食・嚥下機能障害といいます。

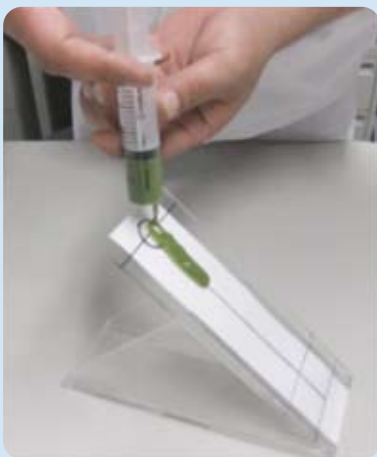
多くの病院や施設では、食べる機能に問題がある患者さんに対し、食事をミキサーにかけてとろみをつける、ゼリーやムース状に固めるなど、飲み込みやすいように工夫した嚥下食を提供しています。

嚥下食は、とろみの状態にばらつきがあると誤嚥性肺炎(食べた物が気管に入ってしまう、誤嚥物に付着した菌によって肺炎を発症)や窒息の原因になることがあり、当院の嚥下食においてもとろみの状態を一定なものにすることが課題となっていました。

そして今回、嚥下食のとろみを簡単に判定できる方法として"クリームルール"を考案しました。"クリームルール"とは、調理物が傾斜板を流れた距離を測定することで調理物のとろみを判定する方法です。一定量の嚥下食を45度の傾斜板上部から滴下し、1分後に止まった時点の長さを計測します。この方法を用いることで、料理やとろみ剤の種類に関係なく短時間でとろみの状態を確認でき、均一で安全な食事の提供が可能になりました。

この方法は、国外での使用も視野に入れ「Cream Rule」の名称で特許を出願し、商標登録を完了しています。

当院では、"クリームルール"を他の病院や施設に広く情報提供し、さらに自宅退院の患者さんへの栄養食事指導においても活用していきたいと考えています。



クリームルールで判定



クリームルールを用いた栄養食事指導

クリームルールの使用方法など詳細は、当院ホームページに掲載しています。

<http://fph.pref.fukui.lg.jp/comedical/top/nutrition/>



CONCERTO

コンチェルトのページ

福井県立病院 地域医療連携通信

地域医療連携医のご紹介

「開業して一年」

まつだ内科クリニック 院長 ^{まつだ} ^{ひさと} 松田 尚登 先生



昨年9月に松田外科胃腸科医院からまつだ内科クリニックへと、新たに再出発をきりました。当院では、生活習慣病や風邪などの診療から、もともとの専門である消化器領域の検査治療を行っております。昨今普及してきた、鼻から挿入する辛い胃カメラ、色調変化させ画像を拡大し詳細に診断するカメラも取り揃えています。物療機器もあり、できるだけ様々なニーズに答えられるようにしていますが、まだまだかかりつけ医一年生、より良いクリニックに成長中です。

ところで、最近、「未病」という言葉を聞くことがありますか？もともとは東洋医学で使われていた言葉で、現在では、特に症状はありませんが、検査をすると軽度異常がある状態や、症状はあるけど検査をしても特に異常が見つからないといった場合を指します。かかりつけ医として、この「未病」が本物の病気に進まないように、症状を和らげるようにする事にも力をいれています。

県立病院とは連携を行い、詳細な検査や高度な治療をお願いしたり、病状が安定した患者さんの外来治療の依頼を受けたりしています。かかりつけ医をご希望の方や、どこにかかって良いか悩んでいる方など、気軽にご相談ください。



住所: 福井市町屋2丁目5-25 TEL: 0776(21)6550

歯科講演会のご案内

日時: 平成28年11月16日(水)
19:00~20:00

場所: 福井県立病院 3階 講堂

演題: 「病診連携で永久歯保存が可能となった小児巨大のう胞の一例」他

講師 福井県立病院 歯科口腔外科

主任医長 近藤 定彦

医 長 多賀 智治

医 長 西岡 道規



地域医療連携医交流会のご案内

日時: 平成28年11月24日(木)
18:30~21:00

場所: ホテルフジタ福井 3階 天山の間

内容: 講演会(18:30~19:20)

○当院における退院支援の取組み(10分)

説明者: 地域医療連携推進室 看護師長 松田 雅恵

○当院の医師による講演(40分)

演 題: からだに優しい次世代のがん治療
~ 私たちが目指している放射線治療とは ~

講 師: 陽子線がん治療センター長 玉村 裕保

懇親会(19:30~21:00)

地域医療連携医の先生のご参加をお待ちしております。

お申し込みは地域医療連携推進室までお願いいたします。

インターンシップ

福井県立病院の看護を知ってもらうため、県内外の看護学生75人を対象に、職場体験や意見交換をしました。今年度は8月9日、23日、26日の3回にわたり実施しました。



手術室・ICUを見学しました。



新生児室で授乳を見学しました。



各病棟では、看護師とともに看護体験を行いました。患者さんの情報を交換したり共有する場面に間近で見学してもらい職場の雰囲気を経験しました。



意見交換会では、新人研修の内容や、勤務体制、福利厚生など学生から多くの質問がありました。

る
た



手洗い指導

福井県立病院探検隊を実施しました

8月19日に小学校5、6年生を対象とした福井県立病院探検隊を実施しました。

この病院探検隊は、子供たちに病院内部の見学や簡単な医療体験をしてもらうことで、病院の仕事への関心を深め、医療・健康について意識を高めてもらうため、毎年実施しているものです。

当日は、厨房を見学したり、AEDを使用してみたりと、みんな普段したことがない体験をし、夏休みの貴重な思い出になったと思います。将来、この子供たちの中から当院で働く医師や看護師、医療技術者が生まれることを期待しています。

び

す

ほ

立

県

二

ユ

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2016 ふくい」に参加しました

9月3～4日に「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2016 ふくい」が、ふくい健康の森で開催されました。

患者さんご家族、職員110名による県立病院チームが、深夜を含めた2日間にわたり力を合わせてつないだ万歩計リレーで優勝をおさめることができました。

参加いただいた皆さん、ありがとうございました。



ルミナリエ風景



CT装置の見学・説明



調剤体験

ス

福井県立病院 地域医療連携推進室

FAX/(0776)57-2901※ TEL/(0776)57-2900

【月～金 8時30分～18時 (祝日および年末年始)
土 8時30分～12時30分 (12月29日～1月3日を除く)】

※上記のFAXについては、月～土の時間外、日曜日および祝日は、救命救急センターに切り替わります。＜土曜日は紹介患者受付のみで、外来診療は従来どおり休みです。＞

緊急の場合は救命救急センターへお願いします。

救命救急センター

TEL/(0776)57-2990

FAX/(0776)57-2991



健康長寿の福井



新聞やテレビで、県の情報をキャッチ!

新聞 「県からのお知らせ」(毎月1日、15日に掲載)

テレビ番組 「おはようふくいセブン」(FBC/日曜)

// 「ほっとふくい」(ftb/1・3土曜)

// 「まちかど県政」(FBC、ftb/日曜)

広報誌 「県政広報ふくい」(年6回発行)

※ラジオやインターネットでも提供中。

問合せ先: 県広報課 TEL/0776-20-0220